

熊建労5400人の力を合わせた

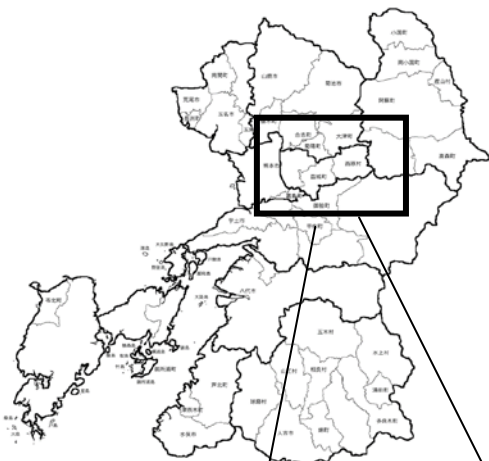
# 熊本地震救援ニュース

2016年5月27日(金)

第22号

発行 村上久義教宣部長  
TEL096-283-7811

## 震源地近辺の組合員宅を一軒ずつ訪問 い災証明発行後に本格的な復興を実感



熊本県全域図

5月22日の訪問行動で93軒、これまでに東部支部組合員562軒訪問しました。中には留守宅もありましたが、ほとんどの組合員が家族と対話することが出来ました。

下記に記した番号は、①広安分会 ②木山分会 ③秋津分会 ④錦丘分会 ⑤長嶺分会 ⑥西原分会となっており、①②は一連の地震で震源地となった益城町となっています。

それぞれの地域で、組合員の状況・要求が違ってきます。まだ、100%ではありませんが、組合員から寄せられた状況をお伝えします。(一部抜粋)

### 震源地周辺拡大図(東部支部)



①ほとんどの方が避難をされており、車中泊をされている方がいます。今後の住居の相談が多く、い災証明が発行されていません。 ②自宅で生活している方は、ほとんどいない。(別の場所に避難や仮設の建物やテント等)基礎や壁にヒビ・瓦や棟の落下や地盤が下がっている等 ③自宅の方もいるが、水がまだ出ない・5月中頃排水できるようになる・雨漏れ等の損害多数。被害が至る所であるが、一部損壊となり保険金の支払いが少ない。全壊の家屋から一部損壊迄幅広い被害がある。 ④家具や食器などの被害あり、一部水が出ない地域がある。 ⑤作業場が全壊した。 ⑥避難者がいまだに多く、水道の復旧が半年～一年との予想。自宅が危険地域にあるため、家財道具等持ち出すことが出来ない。

上記は、訪問対話時の一部抜粋であり、全体を示すものではありませんが、被害の大きな地域ほどい災証明の発行が遅れており、修理や片づけもできない状況です。29日も訪問行動の予定ですが、被災状況は増えてくる可能性があります。また、『ひびが少しずつ広がっている』との訴えが、複数の組合員から寄せられています。